平成２４年度　教育座談会

日時　１１月７日（水）１３：３０～
場所　安房教育会館　２階ホール

学力向上のための新たな方策を考える

テーマ１　学力向上のために、学力テスト等の学校順位の公表は必要か

テーマ２　学力向上のために、学校の土曜日授業は必要か

学力向上テーマに活発な意見

安房教育研究所　ディベート方式で座談会

「学力向上のための新たな方策を考える」をテーマに、安房教育研究所（所長・速水一郎東条小校長）はこのほど、館山市の安房教育会館で教育座談会を開いた。４人のパネリストとともに同所員の教職員37人と一般参加の２人も加わり、ディベート方式のシンポジウムで意見を交わした。

樋口和夫（南房総市教委主任管理主事兼学校教育係長）、永田司郎（神子学院南房総エリア統括マネージャー）、清本智美（館山市教委教育委員）、石井恵子（小湊小校長）の4氏を、パネリストに迎えた。

意見が交わされたシンポジウム

シンポジウムでは、参加者を賛成・反対2つの立場に分けるディベート方式で、「学力向上のために、学力テスト等の学校順位の公表は必要か」「学力向上のために、学校の土曜日授業は必要か」の２題について討論した。

「学校順位」については、「教師の指導力向上につながるのでは」「保護者なら知りたいと思うのは当然」といった賛成意見が。反対意見では「学力は点数だけではない」「学校規模が違うのに、平均点に意味があるだろうか」などが挙げられた。

また「土曜日授業」では、賛成として「学習内容が増えているのに授業時数が変わらないのは不自然」「学力を向上させるために学習時間を増やすのは当然」。一方で「週末には子どもも教師も休養して、月曜日から精一杯頑張ると良い」「自主的な学習の時間を持たせる必要がある」とする反対意見が出された。

参加した2人の一般からは「教師の指導力は低下している。『はずれ』と思われる教師にならないでほしい」「経済的に豊かな家庭ばかりではないので、公教育に頑張ってほしい」と、教諭らに対する激励の声も飛んだ。

学校現場では現在、「確かな学力」の育成に向け、学力状況調査等をもとに、教員の指導力向上のための研修、指導体制の工夫改善が行われており、「さまざまな意見が聞け、意義深かった。さらなる取り組みにつなげたい」と所員ら。

同研究所は、来年2月に行う研究発表会に向け、座談会の成果を踏まえ授業研究などをさらに深めていくという。

平成２４年１１月２０日（火）　房日新聞掲載